

2015・7・28

川崎市立小学校特別活動研究会

27年度 川崎市小学校 教育研究会研究大会 特別活動

「すぐに役立つ！

『特別活動』実践紹介！」

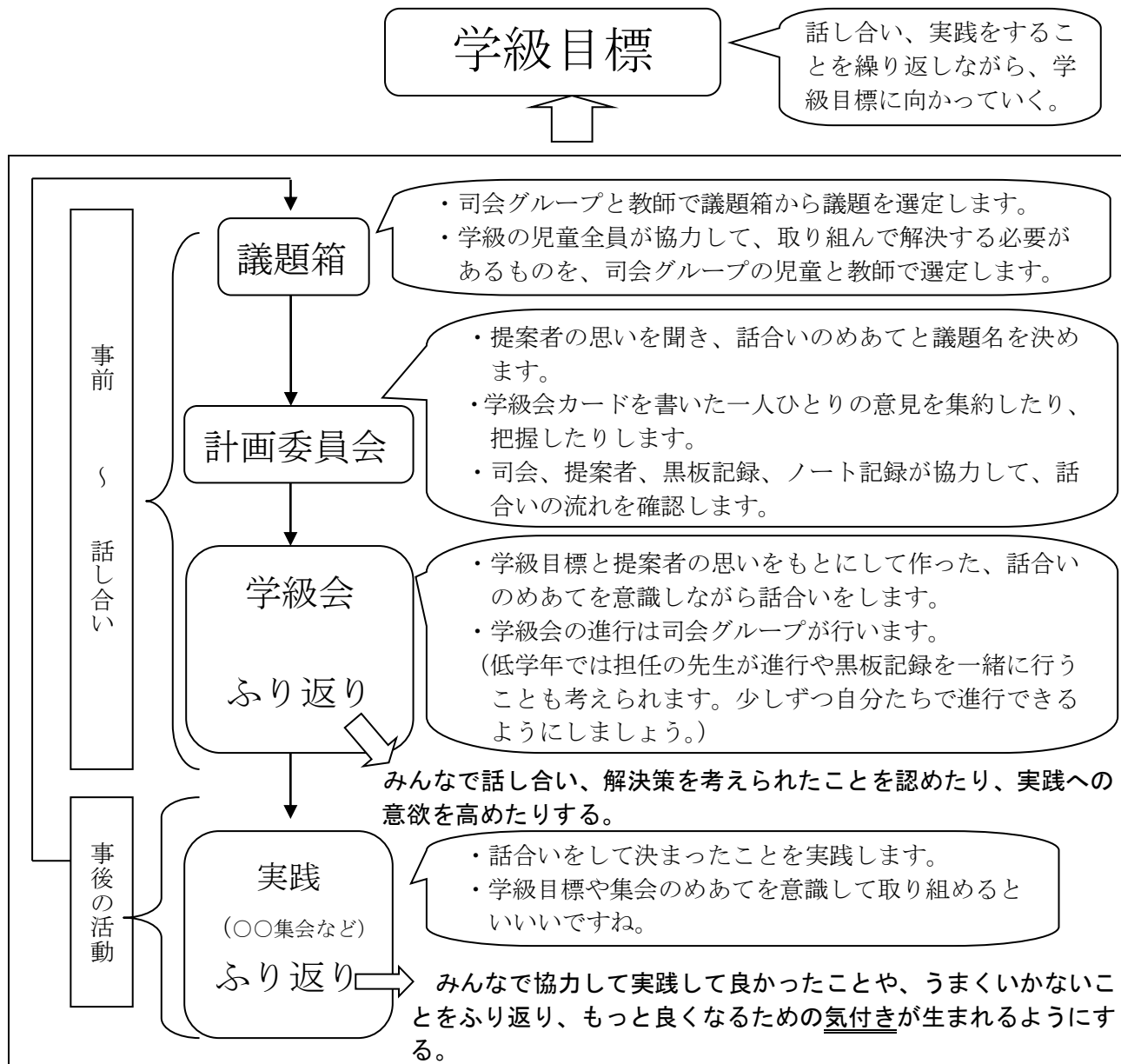
主な内容

- 学級活動（1）・・・学級会の流れと「振り返りカード」の工夫
- 学級活動（2）・・・望ましい人間関係の形成
- 児童会集合・・・代表委員会・委員会活動
- クラブ活動・・・年間計画・活動の工夫・クラブ立ち上げ
- 学校行事・・・目標を意識した運動会

1、日時 平成27年7月28日（火） 15時00分～16時00分

2、場所 川崎市立幸市民館 大会議室

I 学級会の流れ



II テーマについて

夢や希望をもって、主体的に話し合い、活動する子どもの育成

～よりよい人間関係を築くためのふり返りの生かし方～

これまで、教師の適切な指導の下に、子どもたちが楽しく充実した学級や学校生活を送れるよう、学級活動(1)の話し合いを充実させる方法について研究を進めてきた。同時に、子どもたちが自分たちで決めたことを実践する楽しさや、進んで活動するよさを味わえるような実践についても探求してきた。(詳しくは、『生きる力』をはぐくむ学習指導と評価の工夫改善Ⅲ 小学校特別活動』を参照)

しかし、研究を進める中で、それぞれの活動が単発に終わってしまうことが多いことに気が付いた。このことから、活動相互の関連性に着目し、子どもたちが前回までの活動の良さと反省点を生かして、よりよい活動をつくっていくことが大切であると考えた。そこで、つながりを大切にするために「振り返り」を中心に研究を進める必要があると考え、サブテーマを「よりよい人間関係を築くためのふり返りの生かし方」とした。

Ⅲ 研究の内容

今年度も、学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」の活動内容の中でも、ア「学級や学校における生活上の諸問題の解決」を中心に研究実践を行うこととした。この活動内容は、学級会での話し合い活動(事前～話し合い)と、そこで集団決定したことを協力して実践していく活動(事後の活動)が中心となる。そこで、子どもたちのふり返りが効果的なものになるよう以下の2つを中心に研究を行った。

①ふり返りカードの工夫

- ・カードに記載することは、必要な内容に精選する。そうすることで、子どもたちに指導すること、意識させたいこと、育てたいことが明確になる。
- ・カードに自由記述欄を設ける。子どもたちが記述欄にどのようなことを書けるようになることを目指していくのかを研究することで、教師が指導すべき内容が明確になる。
- ・小学校学習指導要領解説特別活動編や川崎版評価規準などを参考に、ふり返りカードを作る。そうすることで、6年間を通して育てる子どもの姿が明確になる。

ふりかえりカード(司会グループ用)

ふりかえりカード(児童用)

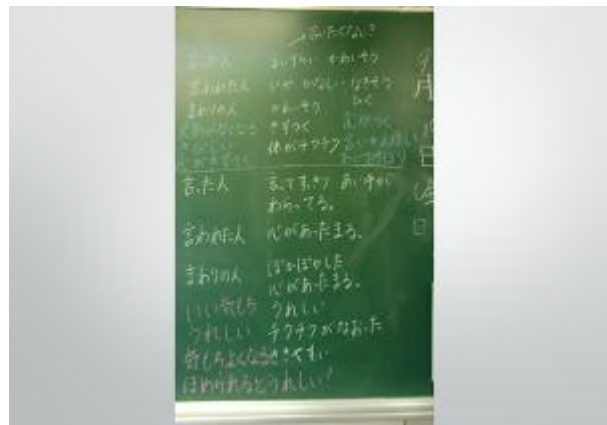
②ふり返りカードを活用した学級活動(1)の実践

- ・ふり返りは、2つの場面(「事前～話し合い」と「事後の活動」)を終えたときに行うことにする。
- ・子どもたちに指導すること、意識させたいこと、育てたいことをふり返りカードに明記にすることで、指導を意図的に行える。
- ・ふり返りを積み重ねることで、諸問題への気付き → 学級会(話し合い) → ふり返り → 事後の活動 → ふり返り → さらなる気付き・・・のように気付きをつなげていける。
- ・子どもは、同じカードを使うことで、ふり返りを行いやすくなる。また、教師は、低・中・高の発達段階を意識した指導を行いやすくなる。

Ⅳ 研究のまとめ

年度当初は単なる個人のまとまりだった学級が、学級会とそこで決まったことを実践していくことを通して、一人一人の学級への所属感や連帯感が高まり、一つの集団としてまとまっていく。このような学級の変容をめざして研究を進めている。今年度は、新たに「ふり返りカード」を作成した。事前の活動、話し合い、事後の活動の一連の流れを通して、それぞれのよさを多面的、継続的に「ふり返る」ことで学級への所属感や連帯感が生まれる。さらに、次の活動をよりよくしたいという思いから改善点に気付き、話し合い、実践する中で所属感や連帯感が高まる。やがて、学級は一つの集団としてまとまり、年度末には子どもは「楽しい1年だった。」「よい友だち(仲間)に出会えた。」と感じられるようになる。

「ふり返り」をしっかりと行うことで、集団を大切にしようとする思いや友だちを信頼しようとする気持ちをもつことができる。ここで得たよい経験が、少しずつ学級全体に波及し、集団としてのまとまりが生まれることになる。望ましい集団活動をつくっていくためにも、「ふり返り」をする時間と場を大切にしながら学級活動(1)の実践に取り組んでいきたい。



<4年生> アンケート結果①

1. あなたは友だちの言葉づかいで気になることがありますか?
ある7人 (20%) ない28人 (80%)
2. あなたは言葉づかいで失敗したことがありますか?
ある12人 (35%) ない23人 (65%)

アンケート結果②

～友だちの気になる言葉の具体例～

- ケンカしたときに「バカ」と言われた
- 同じ学年なのに敬語
- 2対1で言われた
- 間違えたときに「バカじゃん」「死ね」と言われた

アンケート結果③

～自分が言ってしまった言葉の具体例～

- ケンカしたときに「バカ」と言ってしまった
- 友だちに「うるせえよ」と言ってしまった
- 友だちに怒ってしまい「バカ」と言った
- 相手がひどいときに「うざい」と言ってしまった
- 調子にのりすぎて言ってしまった



「気持ちのよい言葉」めあてカード

() 組 () 番 名前 ()

「気持ちのよい言葉」をつかうためにどんなことに気をつけようと思いますか?
めあてをだてて1週間取り組みましょう。

日	自分のやりかた	友だちから
10月2日	かたはしきしてはからず、や言葉を 使ったのでよかった	友だちから言葉を大きく つかうました
10月3日	よい言葉とかけをさることに した	できたよー
10月8日	あまのきんぎょをうたがうして、か おまじないをうたがうして	OK
10月9日	なごてがさや言葉をつかえた	ふふ、め言葉をさ す
10月10日	がいのや言葉はわたりし した	よい

研究のまとめ

学年ごとに段階を踏んだねらいを設定

→言葉づかいに対する意識の高まり、深まり

ロールプレイやグループでの話し合いの活用

→客観性が生まれ、自分の行動を見直すことができた

同じテーマの題材を系統的に扱う

→経験を積み重ねることで、よりよい人間関係を築くための実践力が高まる

児童会活動の実践

【児童会活動の目標】

児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

【児童会活動の内容】

(1) 児童会の計画や運営 (2) 異年齢集団による運営 (3) 学校行事への協力

【児童会活動の形態】

(ア) 代表委員会 (イ) 委員会活動 (ウ) 児童会集会活動

【児童会活動のポイント】

児童の発意・発想を生かした自主的、実践的な活動を保障しましょう。

学校全体、他学年の児童を意識した活動を促しましょう。

児童会活動の活動内容や組織の形態を見直しましょう。

振り返りを生かした活動を行いましょう。

全校児童が学年の枠を越えて協力し、自分たちで学校をよりよくしていこうとする姿勢が大切です。

【代表委員会の実践例】

～全校を巻き込んだあいさつ運動～

よりよい学校にするために、私たちにできることは何だろう。学校のみんなが笑顔になることをしたいな。



全校に呼びかけてあいさつ運動をしようよ！

○ステップ1・・・まずは6年生があいさつ運動の手本を示そう。

全校に呼びかけようという願いのもと、6年生があいさつ運動の手本と示すため、チームを立ち上げた。代表委員が6年生の各クラスに呼び掛け、有志が集まって門に立った。手作りのたすきをかけ、元気なあいさつをする姿が見られた。もっと盛り上げたいという気持ちから、放課後に自分たちで看板を作って参加した子もいた。あいさつをしながら下級生とハイタッチをして、自分たちの活動に興味をもってもらおうと児童自らが考え、進んで協力しながら実践する姿が見られた。

○ステップ2・・・全学年に呼び掛け、一緒に活動を盛り上げよう。

6年生が実践した後は、全クラスにポスターを持って、あいさつ運動の宣伝を行った。安全に配慮して、教師指導のもと学年ごとに参加できる曜日を振り分けた。多くの児童が参加し、元気なあいさつをしていた。自分たちで計画し、全クラスに呼びかけたり、グッズを作ったりする姿からは、子どもたちの自主的、実践的な活動が見られた。

全職員の支えのもと行うことが大切
事前に、教職員にも児童の自主的、
実践的な姿を支援するよう共通理解
を図った。全職員の支えのもと行う
ことで、学校全体のあいさつに対す
る意識が高まった。

あいさつ運動に参加して感じたこと（子どもたちの感想より）

- ・顔を見て、目を合わせてあいさつを返してくれる人が増えた。
- ・自分からあいさつをしてくれる子が増えてうれしい。
- ・低学年はわざわざ近寄ってきてあいさつしてくれる子がいる。
- ・先生だけではなく、他の学年の人とあいさつできるようになった。
- ・あいさつをすると気持ちがよくなった。

【委員会活動の実践例】

～放送委員会のよりよい活動をめざして～

給食中の放送を、関心をもっ
て聞いていない人が多いな。

どうしたら、もっと校内放送
に関心をもってもらえるかな？



給食中の話題になるような
内容にしたいね。
そのためには、まず全校にア
ンケートを取って意見を集め
よう！

○ステップ1・・・各クラスにアンケートをとり、どのような放送が聞きたいか意見を集めよう。

子ども達は、委員会からの一方的な発信だけでなく、全校児童からアイデアを集め、応えていく必要性を感じていた。また、多くの人の意見を反映させることで、より注目されるのではないかと考えた。アンケートでは、どんな内容の放送をしてほしいか書いてもらい、委員会の児童が実現できそうなものや関心を集めそうな意見を選び、取り組んだ。

○ステップ2・・・アンケートの意見を生かした活動を実践しよう。

「委員会の委員長インタビュー企画」

各委員会がどのような活動をし、各委員会のメンバーはどのような思いで活動に取り組んでいるのかを知りたいという意見が多く集まったので生放送で実施した。低・中学年にもわかりやすいよう、委員会の活動内容を質問する工夫などをしていった。放送中には、自分たちの学校の友達の話ということで、静かに真剣に耳を傾けているクラスが多く見られた。

児童の発意・発想を生かした活動を継続していく

自分たちが目標としていた、校内放送に関心をもってもらうことが実現し、これまで以上に活動の手ごたえを感じているようだった。今回の実践により、生放送のインタビューに対する関心が高いことに気がつき、「今度は新しく来た先生に生インタビューしよう。」など経験を踏まえた自主的、実践的な取り組みが展開されるようになった。今後、さらによりよい活動を考えるように促すことで、児童の発意・発想を生かした活動が継続するよう支援していくことが大切だと感じた。

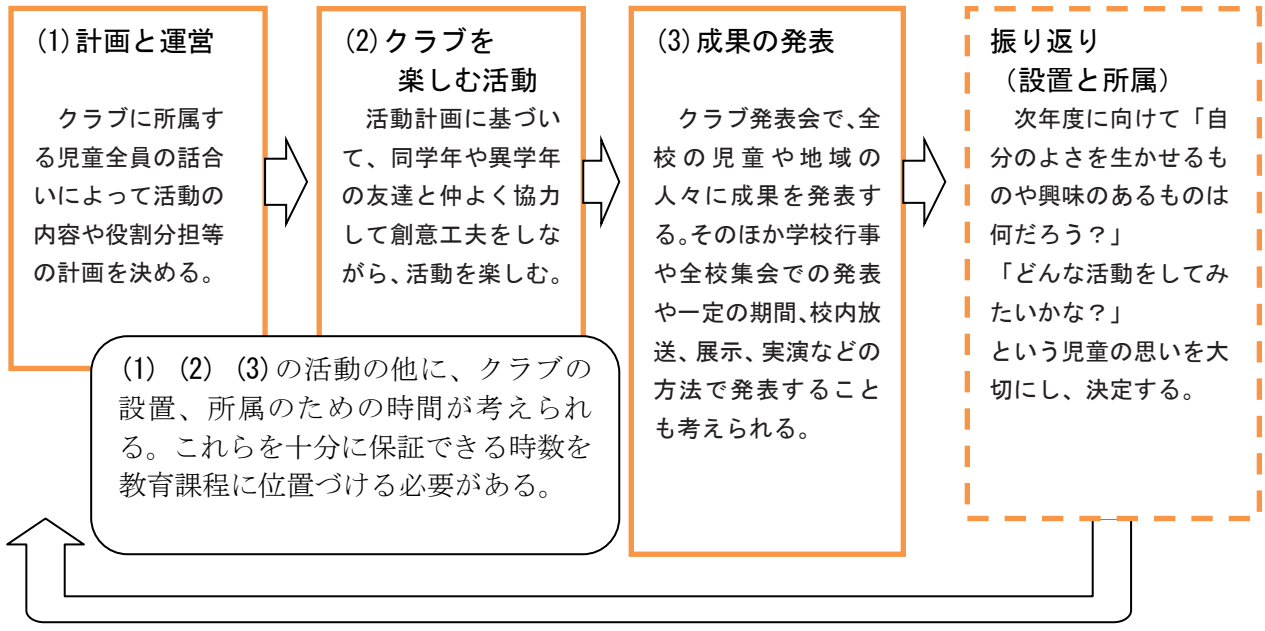
クラブ活動の実践

【クラブ活動の目標】

クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

【クラブ活動の内容】

「クラブ活動を児童の活動にするために」 【楽しく豊かな学級・学校生活を作る学級活動 小学校編より】



(1) 計画・運営について

年間の見通しをもつ年間活動計画・クラブ活動カードの例

クラブ	
担当の先生：	
クラブ長：	副クラブ長：

〈年間の活動計画〉

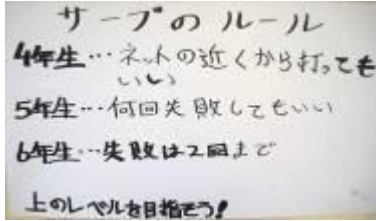

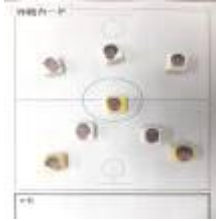
月	活動内容
第1回	クラブ長、副クラブ長決め。年間計画立て
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	

指導上の留意点

- ・教師が作成した指導計画に基づいて、児童が協力して計画を立てられるように、年間の予定を入れておく。
- ・児童会活動と同様に、年間指導計画に基づいて、児童の活動計画の作成を支援できるようにする。
- ・「クラブ活動は、児童の創意工夫で楽しむ活動」であることを伝える。
- ・みんなが楽しめるような計画を立てて、発表を目指せるようにする。

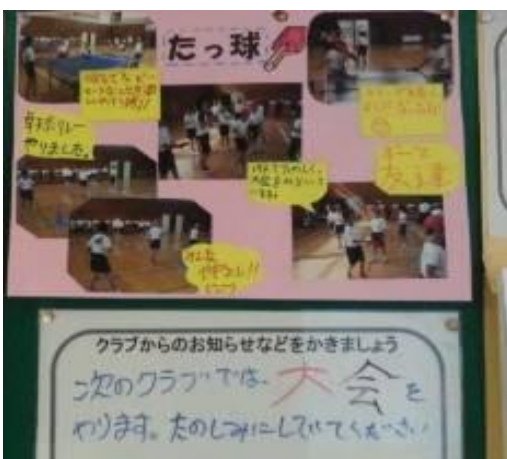
クラブのみんなで決めるので協力して活動できるし、見通しをもつこともできる。

(2) クラブを楽しむ工夫

		
<p>発達段階に応じた ルールの工夫 (テニスクラブ)</p>	<p>学年や経験の違いによる技能 差を考慮したチーム構成 (バドミントンクラブ)</p>	<p>顔写真を貼ったコマを使った 作戦ボード (バスケットボールクラブ)</p>

(3) クラブ成果の発表

クラブの発表を兼ねたクラブ掲示板の工夫の例 子どもまつり（学校行事）での発表の様子



学校行事や全校集会での発表や、一定の期間、校内放送、展示、実演などの方法で発表することも考えられます。

(4) 設置、所属について（クラブ立ち上げ～決定までの一例）

日程	児童	教師
3月初旬	5年生は、新しく作りたいクラブを考える。代表者を決め、担当の先生に報告する。クラブ希望用紙を記入し、内容を書き、立ち上げの準備をする。	立ち上げたいクラブが、条件に合っているかをチェックする。立ちあがっているクラブを貼り出す。危険性がないか、学校のクラブとしてふさわしいかをチェック。
3月中旬	発起人は、クラブ活動の内容やクラブのよさをアピールするために準備を行う。	代表者を集め、同じ様なクラブは合体したり、活動場所について話し合ったりする。4月に行う、クラブ紹介集会について説明する。
4月初旬	クラブ紹介集会に向けての準備	紹介集会での発表のアドバイスをする。
4月中旬	【クラブ紹介集会】 発起人以外の4～6年生はクラブ紹介を見てどのクラブ部入りたいか考える。貼り出された希望集計を見て、他のクラブに移動するかどうか考える。	紹介集会の趣旨やクラブ設立集会について説明する。 第一希望を集計し、貼り出す。人数が多いクラブや、設立が難しいクラブを把握しやすいようにする。
4月下旬	【クラブ設立集会】 4・5・6年が一同に集まって自分が入りたいクラブを選ぶ。発起人はクラブをアピールしながら設立をめざして呼び込みを行う。	多くのクラブが成立するよう、声をかける。条件にあっていないクラブにアドバイスをしたり、移動が可能な児童がいなかったら全体に声をかけたりする。

1. 学習指導要領や特別活動指導資料からみえる大切にしたいこと

学校行事で学校生活をより豊かで充実したものに！！



異年齢集団による交流でよりよい人間関係を築く



特色ある学校づくり

家庭や地域との連携



5年生のみなさん、私達6年生と一緒にがんばりましょう。



ねらいを明確にした計画・実施を

2. テーマの設定

夢や希望をもち、主体的に活動する子を育む学校行事の創造
～子どもが輝く 運動会をめざして～

柱1: 特別活動における学校行事の目標

柱2: めあてを意識した運動会

柱3: 異年齢集団による交流の充実

柱4: 子どもたちが主体となる運動会

3. テーマに基づいた実践の紹介と成果

① 特別活動における学校行事の目標

特別活動の目標

学校行事の目標

学校行事の内容

健康安全・

体育的行事の内容

運動会の目標の見直し

→各学校における運動会実施要項の「目標」の見直し

活動内容の見直し

主体的に参画できる運動会へ

②めあてを意識した運動会

(1) 学級活動 (2) との関連を図った、めあてをもつための工夫



子どもたちが書いためあてを大きく掲示すると意欲の向上につながります。



(2) 児童の実践意欲を高める「めあての可視化」の工夫



クラスに一枚の模造紙を配布します。そこに、一人一人のめあてを記入します。



色(組み分け)ごとの大きな紙に、一年生から六年生までが色ごとに書きま



③異学年集団による交流の充実

(1) 異年齢集団による「あこがれと誇り」を育む

～たてわり活動と応援団の関連を図った工夫～



法被や旗の贈呈に、思いが引き締まります。



6年生から5年生へ
思いを引き継いでい
きます。



「応援団」の活動
を通して、学年を超え
て一つになります。



④子どもたちが主体となる運動会

(1) 児童会を中心とした取り組みの工夫



児童会で掲げた年
間スローガンを活
用し、常に自分た
ちの意識する目標
を身近にします。



マスコットを全校
に呼びかけて、投票
で決めるなどの工
夫ができます。

児童会が主体とな
って行う競技では、
その説明も自分た
ちの手で行います。



3. まとめ

運動会の前に学習指導要領上の目標や内容などを再確認し、実施に至るまでの過程を大切にしながら安全にも留意して活動できるようにしていきましょう。

運動会を通して、どのような姿をめざしていくのかを明確にすることで運動会への取り組みがより実践的なものになります。目標の見直しを行い、共通理解を図りながら進めていくことはとても重要です。

実施後にも運営面の反省ばかりでなく、子どもたちが目標に近づいたか、自主性が育ったかという視点から反省を行っていくと、来年度はさらによい運動会になると思われます。

